

2【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	嬉野市立轟小学校		
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 総合評価については、全てにおいて成果指標を達成することができた。引き続き、取組の充実に努める。 食事の質の充実に向けた取組をしていく。 家庭と連携した将来の夢や目標をもつ児童の育成に取り組む。 		
2 学校教育目標	夢をもち、ふるさとを愛し、生き生きと学ぶ轟っ子の育成 ～高い志をもつ、持続可能な社会の創り手とするために～		
3 本年度の重点目標	①主体的な学びと豊かな表現力の育成 ②心に響く生徒指導及び特別支援教育の充実 ③健康で逞しい体づくり ④地域コミュニティ等との連携協働による教育活動の推進 ⑤ICT活用教育の推進		

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目									
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	A	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師は100%だったことから、今後もこの取組を継続していく。	A	・成果指標を達成した教師は100%であった。全職員の共通理解の下、具体的取組を推進した結果と言える。	A	・素晴らしいことだと思う。
	○根拠や理由を明確にして、自分の考えを書いたり話したりする能力の育成を図る。	○「友達と話し合う活動を通して、自分の考えの根拠や理由がはっきりした」と回答した児童の割合90%以上	・意図的、計画的な話し合う活動の場の設定や、考えを発表したり書いたりすることができるような支援を行う。	B	・「友達と話し合うことで、自分の考えの理由がはっきりわかりますか。」というアンケートで肯定的な回答をした児童は89.6%であった。 ・今後は、話し合いの回数を重ねることで、話し合いの仕方を身に付けさせていく。	A	・肯定的な回答をした児童が94.3%であった。全職員の共通理解の下、様々な教科等で話し合いの場を設けたり、掲示物「目指す対話の姿」で模範的な話し合いの仕方を学ばせたりした。	A	・掲示物「目指す子どもの姿」を使って工夫されていることが、成果につながっていると感じる。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童90%以上	・道徳教育や体験学習、奉仕体験などの様々な活動を通して、児童の心に響く指導の充実を図る。	A	・道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童が95%だった。今後も自分の成長や高まりを実感できるような教師による承認、称賛、励ましを継続していく。	A	・アンケートにおいて肯定的な回答をした児童が96.2%だった。職員全体の共通理解の下、自分の成長や高まりを実感できるような教師による承認、称賛、励ましを継続して行った成果と言える。	A	・子どもたちには、感じる心、想像力を大切にしてほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止について、組織的対応ができていると回答した教師90%以上	・いじめ問題に関する体制を明確化し、報告・連絡・相談を徹底する。	A	・「いじめ防止等について、組織的対応ができている」と答えた教師は100%だった。引き続き、疑わしい事案が発生した際は、連絡・報告・相談を密にし、組織的な対応を徹底していく。	A	・肯定的に回答をした教師が100%だった。基本方針を確認し、疑わしい事案が発生した際は、連絡・報告・相談を密にし、組織的な対応を徹底した成果と言える。	A	・どのクラスでもいじめは起こり得るという気持ちで、アンテナを高めて子どもたちをしっかりと見てほしい。
	○児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童90%以上	・キャリアパスポートを活用し、節目の時期に児童が自身の変容や成長を自己評価できるようにする。また、その取組について、保護者へ周知を図る。	A	・「あなたは、大人になつたらなりたい職業や夢がありますか。」というアンケートで肯定的な回答をした児童は92.1%であった。 ・引き続き、「キャリアパスポート」を活用した指導等を行う。	A	・肯定的な回答をした児童が91.8%であった。 ・保護者においては昨年度より7.1ポイント増加し、87.1%であった。懇談会等で「キャリアパスポート」について周知を図った成果と考えられる。	A	・「キャリアパスポート」の活用や、日頃の御指導のおかげで、昨年度よりよい結果となったと思う。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童90%以上	・学校栄養士と担任による食育の授業、食生活改善推進協議会と連携した授業や、食育月間の取組の充実を図る。 ・学校での取組を学校だより、学校HP、食育だより、コミュニティ通信等で積極的に発信する。	A	・「健康に食事は大切である」と考えている児童は100%であった。 ・今後も、学校栄養士と担任による食育の授業を全学年実施していく。また、引き続き学校での取り組みをHPや通信等で発信していく。	A	・子どもさんは、「健康に食事は大切である」と考えていると思います。肯定的な回答をした保護者は91.6%であった。児童は給食の残量はほとんどないが、家庭においては食べ物の好き嫌いがみられるようだ。 ・次年度も、学校栄養士と担任による食育の授業を全学年で行うと共に、食に関する取組を食育便りや給食便り、通信等で家庭に呼びかけていく。	A	・今後も、食の大切さを子どもや家庭に知らせるような取組を続けてほしい。
	○「運動習慣の改善や定着化」	○授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上	・週に1回、縦割り班で外で遊ぶ日を設定し、運動や遊びに親しみをもって取り組めるようにする。	B	・運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童は75%であった。新たに、児童主催の外遊びの日を定期的に設定し、進んで運動できるようにする。	A	・毎日運動やスポーツをしていると答えた児童は91.8%であった。昼休みに児童主体で全校遊びの日を設定した成果と考えられる。学年を越えて楽しんで遊ぶ姿が見られた。	A	・児童アンケートで肯定的な回答をした児童だけに着目して評価するのではなく、否定的な回答をした児童をきちんと把握して、手立てを講じることが大切だと思う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限(月45時間)を遵守する。	・定時退勤日(毎週金曜日)を確実に実施し、18時に施錠する。 ・会議等の終了時刻を明示し、話し合いの時間を削減する。	A	・全職員の時間外超過勤務時間の平均は34時間で、45時間を遵守することができた。ただ、個人差が大きく、今後も引き続き定時退勤日の確実な実施と、優先順位をつけて見直しをもって業務を行うことを指導していく。	A	・全職員の時間外超過勤務時間は平均34時間で、45時間という上限を遵守することができた。職員アンケートにおいても、月45時間を守るために工夫して働いていると回答した職員が100%であった。全職員が、優先順位を決めて先の見直しをもって業務の効率化を意識することができた。	A	・健康な体で、子どもたちの教育に当たってほしい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○小中連携	○小中連携による学力向上の推進	○中学校区で定めた学力向上の取組を達成した教師90%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3」を活用したわかる授業の確実な実施を図る。 ・意図的、計画的に「書く活動」と「話し合う活動」の場を設定する。	A	・小中学校区で定めた学力向上の取組を達成した教師は100%であり、小中連携研修会や他校の授業研究会を通して、今後も共通した実践に取り組んでいく。	A	・学力向上の取組を達成した教師は100%であった。 ・県学習状況調査の結果では、目標としている数値に到達することができた。来年度も共通実践に取り組んでいく。	A	・これからも小中学校でお互いの目標を共有しながら、連携を進めてほしい。その中で、小学生が中学生の姿を見て、自ら学び取ってもらえたら、より効果が上がる。
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が前年度より向上した教員90%以上	・特別支援教育に関する研修会の実施(8月) ・ケース会議の開催(随時)、気になる児童の情報共有(毎週火曜日)と共通実践	A	・8月にグループワークを含めた研修を行ったことで特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した職員が100%であった。今後もケース会議や気になる児童の情報共有を継続して行っていく。	A	・特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した職員が100%であった。 ・気になる児童の情報共有やケース会議を随時実施することができた。	A	・先生たちの子どもへの愛情を感じた。
○ICT活用教育の推進	○ICTを効果的に活用した教育活動の充実	○ICTに関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童80%以上	・ICT教育に関わる個人研修を年に一回以上実施する。 ・ICTの活用方法について全教職員で共有し、指導の充実を図る。	A	・「タブレットを使うことで、学習内容がよくわかりますか」というアンケートにおいて、肯定的に回答した児童が97%だった。引き続き活用方法について職員で共有し、指導の充実を図っていく。	A	・肯定的に回答した児童が98.2%だった。月に2回のタブレット研修等で、活用方法について職員間で共有し、指導の充実を図った成果と言える。	A	・タブレットを活用して、ICT教育の充実を図ってほしい。
○保護者、地域との連携	○「コミュニティ・スクール」としての開かれた学校づくり	○保護者アンケートで「開かれた学校づくりに努めている」の肯定的な回答を90%以上にしている。	・地域コミュニティと連携した教育活動の様子を、学校HPや学校・学級だより等で定期的かつ積極的に情報発信する。	B	・地域コミュニティとの連携を強化して、様々な教育活動を行うことができ、その様子を校内の掲示板や学校HPで知らせることができた。今後は、児童が地域に貢献できる活動を増やしていきたい。	A	・保護者アンケートで「開かれた学校づくりに努めている」の肯定的な回答が96%で、目標を達成することができた。地域コミュニティと連携した教育活動を積極的に発信した結果だと考える。また、クリーン作戦では、児童が地域の方と協力して地域をきれいにすることができ、地域に貢献できる1つの活動となった。	A	・子どもの声が地域で聞こえることが、一番の地域貢献だと考える。また、地域のお年寄りや困っている人の手助けが自然とできる子どもに育ててほしい。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 最終評価において、全ての項目で成果指標を達成することができた。引き続き、取組の充実に努める。 将来の夢や目標をもつ児童の育成に向けて、更なる取組の充実と家庭との連携強化を図る。 児童が、地域に貢献できる取組を検討し、実践化を図る。
----------------	---